

# 小出病院 COVID-19 アウトブレイクの経緯と教訓

はじめに

今回の小出病院での新型コロナ感染アウトブレイク(院内集団発生)は県内最大規模の医療機関クラスターを引き起こしてしまいました。保健所等の指導のもと感染対策を進め、ようやく2021年6月8日をもちまして当院の非常事態宣言を解除し、病院機能は正常化することができました。4月23日の職員感染発覚から約一か月半にわたり、患者さん・職員をはじめとする当事者、そして関係諸機関・地域住民のみならずには大変なご心配とご負担をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。今回のアウトブレイク事案の経緯を報告いたします。

## アウトブレイクの経緯

2021年4月23日に病院職員の一人が発熱症状を自覚して医療機関を受診し、ウイルス抗原検査で感染が発覚したことが発端でした。4月24日に職員が所属する当該病棟関係者(職員・委託業者・患者)について全員PCR検査を実施したところ複数の陽性者が確認され、この時点でアウトブレイクと判断し、非常事態宣言を発出いたしました。保健所の指導のもとに、さらにスクリーニング範囲を拡げ感染拡大範囲を同定しながら、陽性患者さんをしかるべき医療機関へ転院搬送し、職員濃厚接触者を自宅待機させ、入院患者濃厚接触者は感染拡大防止のため、退院を待機いただき健康観察期間を設けました。その後も散発的に職員・患者から陽性者が認められ最終陽性者(5月17日)から三週間経過した6月8日をもって「院内からすべてのウイルス感染経路が消失した」と判断し、非常事態宣言を解除しました。この間本来なら当院で治療やリハビリテーションを提供すべき患者さん方がその機会を失うことになったことは大変申し訳なく、また当該病棟に入院していたために、本来は退院して通常生活に戻れるはずであった方にも退院延期をお願いせざるを得なかった点については、患者さん・ご家族に深くお詫びいたしますと同時に、この間強化された感染対策にご理解とご協力を賜りましたおかげでアウトブレイクの収束を迎えたことに深く感謝いたします。

今回の大規模アウトブレイク事案を振り返り反省点が浮き彫りになったことと、多くの助言・指導をいただきながらの試行錯誤を通して、当院のような高齢者中心の施設にとって有効な感染対策の在り方についても考えが及ぶようになりました。これらのことを今後の地域感染対策に教訓としてお役立ていただけるよう考察いたしました。

## 教訓とすべきこと1 フェイズ(感染拡大状況)の認識と管理判断

わたしたちは当時フェイズ2と認識していました。フェイズ2とは「特定された患者集団を封じ込め

る」段階です。相談センターからの紹介患者から最初の感染者が見つかるだろうと考えていましたが、実はその時すでにフェイズ 3 だったのです。フェイズ 3 とは「特定できない感染経路が地域内にあり、だれもが陽性者の可能性のある状況」のことです。疫学的検討から当院のアウトブレイクは、職員の発症前に感染兆候のない陽性者が入院し、感染リスクの認識がないまま感染が拡大したものと推定されました。当時の水際対策はフェイズ 2 対策「症状あるいは行動歴から疑わしい人に検査をする」というものでしたが、フェイズ 3 対策「すべての入院患者にスクリーニング検査を実施する」であるべきだったのです。振り返ると 4 月には全国・隣接地域の感染状況から「当地もフェイズ 3 に入っているかもしれない」と判断するチャンスは何度かありましたが、それを生かしきれなかったことが大きな反省点でした。適切な情報を適切な判断につなげることが組織としての感染対策の基本であると再認識したことです。現在は当面の間入院時すべての方にウイルス検査を実施しています。

## 教訓とすべきこと 2 ワクチン接種の推進

4 月は医療従事者へのワクチン接種が始まったところでした。もちろん患者さんのワクチン接種は始まる前でした。今回のアウトブレイクで 10 人の職員陽性者が見つかりましたが、ワクチンを一回でも接種した職員の症状はいずれも軽いものでした。水際でウイルス検査を実施しても偽陰性は避けられません。やはり病院内のすべての職員そして可能ならすべての患者さんがワクチン接種することが最も効果的な院内感染対策だと考えています。現在は希望する全職員のワクチン接種は終了しており、市の協力を得て長期入院が見込まれる方にはワクチン接種を院内で実施しています。国の主導のもと、魚沼でも 7 月末を目途に希望する全高齢者にワクチン接種がいきわたるよう、毎日集団接種が進んでいます。高齢者のあとは現役・若年世代です。全市を挙げて 10 月末までに接種が終了するよう、当院も全力を挙げて市のワクチン接種計画に協力してまいります。8 月 15 日（全高齢者のワクチン接種が終了して二週間）には今回のような高齢者施設のアウトブレイクが発生するリスクは低下します。11 月 15 日（全市民のワクチン接種が終了して二週間）にはもしかしたらポストコロナ宣言が出せるかもしれません。市民生活を守るためにも、当院のようなアウトブレイクを起こさないためにも、やはり切り札となる対策はワクチン接種なのだと考えています。毎年の季節性インフルエンザ対策においてもワクチン接種が重要であることを改めて肝に銘じたいと思います。

## 教訓とすべきこと 3 すべてのひとに標準予防策

「すべての人が感染源でありうると考えて、常に感染リスクを低減する適切な対策（手洗い・手袋・マスクなど）を実施する」という標準予防策は、医療の世界では新任職員の基本研修の一環として教え込まれます。しかし集団免疫がないフィールドに伝染性の高いウイルスが入り込んだ場合は、平時対策である標準予防策のみでは感染拡大を防止できません。標準予防策に加えて、経路別予防策と呼ばれるさらに強化した対策が施されることが、院内感染対策の基本です。アウトブレイクと認

識できて初めて有事対応の判断ができるのであり、今回のアウトブレイク事案の遷延の大きな理由の一つが、有事対応への切り替えの遅れでした。今回のアウトブレイクから当院が学んだことの一つは、対象が明確化できれば医療人はさらに強力な感染対策を施すことができることであり、標準予防策は職員だけでなく患者さんにも協力していただけたということでした。コロナ禍では「三密を避ける」とか「ソーシャルディスタンスを保つ」とか「流水手洗いまたは擦式手指消毒」「飛沫拡散防止のために常にマスク(ユニバーサルマスクング)と咳エチケット」といった言葉を一般の方々まで使うようになりました。まさに標準予防策です。一般社会においても、もちろん入院環境においても、常にこのような感染予防行動を患者・一般住民が実施できるようになれば、季節性インフルエンザなどの流行は大きく抑制できるだろうし、今後現れるかもしれない新たな感染症についてもワクチンが開発されるまでの被害を最小限に抑えることもできるかもしれません。医療現場にはつねに医療人とともに患者さんがいます。医療安全リスクの低減には、当事者である患者さん自身の協力により、その安全性が大きく改善するだろうことを実感したことでした。

以上、今回の事案の反省から考察したことを三点にまとめて記させていただきました。他の事業所の対策強化や市民の感染対策意識の向上に少しでもお役立ていただければ望外の喜びです。

おわりに

当院アウトブレイク事案により、多大なご迷惑とご心配をおかけしたみなさまに改めて深くお詫び申し上げます。病院運営にも大きな影響がありましたが、魚沼市民の包括ケアを担当するという当院の本来の役割を取り戻すべく、一日も早く市民のみなさまの信頼を取り戻せるよう、職員一同努力してまいります。今後とも厳しく小出病院をご指導いただければ幸いです。

2021年6月

魚沼市立小出病院

院長 布施 克也